



児童の学習意欲や主体性を喚起する課題を工夫し、互いに疑問や考えを交流させることを基にした学習展開を設定することで、児童が意欲的で主体的に学ぶための授業改善を図る。また、一人一人の教員が自らの授業を分析し、改善の視点を明確にすることで、より児童の主体的な学習態度や思考の深まりを具現化できる実践を目指す。さらに、児童が表現したことを交流することで、更なる思考の深まりや成長を実感させ、課題解決への達成感を味わえる授業作りを行うことを目指す。

児童の現状から

学年	実態・課題	重点項目	具体的な手立て
第1学年	○学習に意欲的に取り組む。 △生活経験が乏しく、自分の考えを表現したり、行動したりする力が弱い。	○話をよく聞き、指示されたことを最後まで取り組む。 ○学習規律を身に付け、自分からすすんで学習する。 ○様々な学習に興味をもって取り組む。	・視覚的にわかりやすい指示や授業を心掛ける。 ・見通しを持たせ、落ち着いて学習や活動に取り組める寛容を作る。 ・支援員と連携を図り、複数体制で個に応じた対応を行う。 ・所感覚を使った活動を取り入れ、体験の場を多く設けるようにする。 ・学校生活の流れを身に付けさせ、友達との交流の場を多く設ける。
第2学年	○学習に意欲的に取り組む。 △集中力が持続しない。習熟に個人差がある。	○説明内容を理解し、指示されたことに正確に取り組む。 ○学習規律を身に付け、自分からすすんで学習する。 ○様々な学習に興味をもって取り組む。	・1つの感覚だけでなく、視覚・聴覚なども幅広く利用して、分かりやすい授業を心がける。 ・見通しをもたせ、指示を明確にして落ち着いて学習に取り組める環境をつくる。 ・通級指導学級と連携を図り、個に応じた達成感を味わわせる。
第3学年	○学習にまじめに取り組む、落ち着いて学習する。 △漢字や計算の基礎的な学習の習熟に個人差がある。 △自分の考えに自信もてず、表現意欲がやや低い。	○話を最後まで聞き、考えを進んで伝える。 ○学習規律守り、めあてや課題を意識して主体的に学習する。 ○根気よく課題に取り組む、自己肯定感をもって表現する。	・児童の考えや思いを大切に、主体性や思考力・表現力の育成に生きる学習を行う。 ・個に応じた支援を重視し、「分かる」楽しみを個々の児童に実感させる。 ・教師と児童、または児童どうしが質問したり自分の考えを伝え合ったりする場を設ける。
第4学年	○学習にまじめに取り組む、主体的に参加する意欲がある。 △個別の学力差が大きく計算や漢字に課題がある。 △自分の考えや意見を的確に表現するための語彙力や表現力がやや低い。	○児童の疑問から学習を創り上げる。 ○個別最適な学びに対応した授業展開にする。 ○表現力や語彙力を向上させるようにする。	・授業のめあて、単元の計画、学習問題などを児童の疑問や意見から作成し意欲的に学習に参加できるようにする。 ・UDLの視点を持ち、授業を展開することで誰もが参加できる授業を目指す。 ・授業内でペアトークやグループワーク、全体討論する時間を積極的に設けることで表現する機会を増やす。
第5学年	○課題解決に向けて、調べたり聞いたりして学習に参加している。 ○問題解決に粘り強く取り組む。 △知識・技能面で個人差がある。 △自分の考えを表現することに自信がもてない。	○自分の考えをもち、表現する力を高める。 ○基礎的・基本的な学力の定着を図る。 ○自主的、主体的な学習態度を身に付ける。	・体験的な活動や児童の興味を引く課題設定を行い、児童が「学びたい」と思えるような授業づくりを行う。 ・自分の考えをもち、表現したり伝え合ったりする場の設定をする。 ・児童が自分たちで学習を進める時間を増やす。
第6学年	○課題解決に向けて、調べたり聞いたりして学習に参加している。 ○問題解決に粘り強く取り組む。 △知識・技能面で個人差がある。 △自分の考えを表現することに自信がもてない。	○自分の考えをもち、表現する力を高める。 ○自主的、主体的な学習態度を身に付ける。 ○基礎的・基本的な学力の定着を図る。	・児童の疑問をもとに学習課題を設定し、児童同士の対話で学習が進められるように教師がファシリテーターとして授業を支える。 ・小集団で発表や共有を行い、児童に表現への自信をもたせる。 ・基礎的・基本的な学習に関する復習を定期的に行う。



自ら疑問をもち、解決しようとする児童 = 自ら学び、考える児童

の育成

